
◆ 目次 ◆

- 1 「伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶」
- 2 「総領事館からのお知らせ」
- 3 「ケベック州の規制緩和プランの発表（2021年5月18日）」
- 4 「各地におけるワクチン接種の実施状況（2021年5月14日現在）」
- 5 「寄稿文」
- 6 「領事便り」
- 7 「広報・文化便り」
- 8 「政治」
- 9 「経済」

* * * * *

1 伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶

モンリオールでは、新緑が美しい、快適な季節になりましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。

現在、コロナワクチンの接種がカナダ各地で大規模に進められていますが、小官も第一回目のワクチン接種を行いました。また、ワクチン接種の対象年齢が引き下げられたことに伴い、総領事館のスタッフも接種を受けつつあります。世界各地で活動している外交官の同僚の報告によれば、現地の邦人へのワクチンの確保に苦勞している地域が少なくないのですが、それに比べて、ケベックでは、国籍や滞在資格に関係なく、当地に居住する邦人は誰でもワクチン接種を受けられます。ケベックのこの寛容な方針に深く感謝する次第です。

最近の感染状況の改善を踏まえ、昨日、ルゴー首相が規制措置の段階的緩和を発表しました。既に領事メールでもお知らせしておりますが、規制緩和の段取りがきめ細かく決められていますので、ご留意ください。この見通しに基づけば、もう少しでほぼ正常な生活に戻ることができそうです。状況の改善を踏まえて、総領事館としても、ケベック州や大西洋諸州との関係強化に再び取り組んで行きます。残された大きな課題は日本との往来の再活性化になりますが、これはカナダ側だけの努力では如何ともしがたいところがあり、日本における状況の改善を待つこととなります。

1年以上続いた不自由な生活もあとしばらくのところまで来ました。幸いなことにこれまで、当地の邦人の方々がコロナの深刻な被害に遭われたとの報告は受けていません。もう少しの辛抱ですので、引き続き感染対策を励行して頂き、元気に夏を迎えましょう。

2 総領事館からのお知らせ

2021年5月、6月の休館日は以下のとおりです。

- 5月24日（月）National Patriot's Day（当地の休日）
- 6月24日（木）Quebec National Holiday（当地の休日）
- 土・日曜日

3 ケベック州の規制緩和プランの発表（2021年5月18日）

5月18日（火）、ルソー州首相が規制緩和プランを発表しました。ポイントは以下のとおりです。

なお、1回目ワクチンの人口比75%接種目標の達成時期を当初の6/24から6/15に前倒しする旨、8月末までに75%以上の人々（12歳以上）が2回目接種を完了すれば、マスク規制の解除や大学、セジェップで通常の対面授業を再開していく旨も発表しました。

【5月28日】

- ・ 州内全土で夜間外出禁止令を解除。
- ・ レストランの屋外テラス営業を許可。（ただし危険度「赤」、「オレンジ」地域では同じテーブルで大人2人＋未成年の子供、又は1世帯まで）
- ・ 私邸の屋外会合を許可。ただし異世帯で8人、又は2世帯まで。
- ・ 州内他地域への移動を許可。（これまでは禁止又は自粛要請）
- ・ 大規模会場や野外スタジアムで1区画250人、全体で2500まで収容許可。

【5月31日まで】

- ・ 州内ほとんどの地域で危険度が「オレンジ」に移行。
- これによって、中等教育の3～5年生も対面授業に移行可能。

【6月11日】

- ・ 屋外バーの再開を許可。（ただし「赤」、「オレンジ」地域では同じテーブルで大人2人＋未成年の子供、又は1世帯まで）
- ・ 屋外で25人までの監督付スポーツ及びレジャー活動を許可。

【6月14日】

- ・ ほとんどの地域で危険度が「黄色」に移行。
- これによって、屋外団体スポーツの再開可。同一2世帯で相互訪問を許可。

【6月18日】

州内ほとんどの地域で危険度が「みどり」に移行。

これによって、私邸で 10 人/3 世帯までの会合を許可。室内団体スポーツを許可。

【6 月 25 日】

・ 2 回のワクチン接種を完了した者の間で、室内でもマスクなし、距離なし交流を許可。

・ 2500 人までの屋外フェスティバルや野外行事を許可。

【州政府 HP】

<https://www.quebec.ca/nouvelles/actualites/details/assouplissement-progressif-des-mesures-pour-tous-a-partir-du-28-mai-31517>

4 各地におけるワクチン接種の実施状況（2021 年 5 月 14 日現在）

（※在留邦人の皆様におかれては、必要に応じて医療機関などに御相談の上、各自の責任でワクチン接種について御判断頂くようお願いします。）

（1）ケベック（QC）州

・ 在留邦人含め、18 歳以上の全住人に対し、ワクチン接種を無料で実施中。

・ 予約サイト（英語選択可能）

<https://portal3.clicsante.ca/>

（電話照会先：1 877 644-4545（無料）、418 644-4545、514 644-4545、450 644-4545）

・ ワクチン関連情報サイト

<https://www.quebec.ca/sante/problemes-de-sante/a-z/coronavirus-2019/deroulement-vaccination-contre-la-covid-19#c91977>

・ ワクチンの副作用については以下のページを参照

<https://www.quebec.ca/sante/conseils-et-prevention/vaccination/vaccin-contre-la-covid-19/#c79170>

（2）ニューファンドランド・ラブラドール（NL）州

・ 在留邦人含め、30 歳以上の全住人、および、すべての医療従事者やエッセンシャルワーカーに対し、ワクチン接種を無料で実施中。

・ 予約サイト

【RHA（地域保健当局）名：Eastern Health】

●オンライン予約

<https://portal.healthmyself.net/nleasterhealth/forms/XMO>

●電話予約

1-833-951-3884

【RHA（地域保健当局）名：Western Health】

●オンライン予約

<https://portal.healthmyself.net/nlwesternhealth/forms/lga>

●電話予約

1-833-703-5470

【RHA（地域保健当局）名：Central Health】

●オンライン予約

<https://portal.healthmyself.net/nlcentralhealth/forms/GEg>

●電話予約

1-833-961-3749

【RHA（地域保健当局）名：Labrador-Grenfell Health】

●オンライン予約

<https://www.lghealth.ca/vaccine>

●電話予約

1-833-960-3643

・ワクチン関連情報サイト

<https://www.gov.nl.ca/covid-19/vaccine/>

・ワクチンの副作用については以下ページ左側一覧の「Get the Facts」参照。

<https://www.gov.nl.ca/covid-19/vaccine/>

（３）プリンスエドワードアイランド（PEI）州

・在留邦人含め、30歳以上の全住人等（詳細は同州HPを要確認）に対し、ワクチン接種を無料で実施中。予約時にPEI州健康保険証番号を照会されるが、同保険証を有さなくとも接種対象者であれば可能。

・予約サイト

<https://pe.skipthewaitingroom.com/walk-in-clinic-provider/covid-vaccination-clinic>

・電話予約：1-844-975-3303

・ワクチン関連情報サイト

<https://www.princeedwardisland.ca/en/information/health-and-wellness/getting-covid-19-vaccine>

- ・ ワクチンの副作用については以下ページの「After Getting the Vaccine」参照。

<https://www.princeedwardisland.ca/en/information/health-and-wellness/getting-covid-19-vaccine>

（４）ノバスコシア（NS）州

- ・ 在留邦人含め、３５歳以上の全住人に対し、ワクチン接種を無料で実施中。
- ・ (NS 州医療保険証の保有者) 予約サイト

Book your appointment

<https://novascotia.flow.canimmunize.ca/en/9874123-19-7418965>

Book your drive-thru appointment

<https://novascotia.flow.canimmunize.ca/en/8675309>

(NS 州医療保険証を有さない場合) 要電話予約 : 1-833-797-7772

- ・ ワクチン関連情報サイト

<https://novascotia.ca/coronavirus/book-your-vaccination-appointment/#no-health-card>

- ・ ワクチンの副作用については以下ページの「Before you arrive at your appointment – Coronavirus Vaccine Factsheet」参照。

<https://novascotia.ca/coronavirus/vaccine/>

（５）ニューブランズウィック（NB）州

- ・ 在留邦人含め、同州に４週間以上滞在している３０歳以上の全住人に対し、ワクチン接種を無料で実施中。
- ・ (NB 州医療保険カード保有者) 予約サイト

<https://www2.gnb.ca/content/gnb/en/corporate/promo/covid-19/nb-vaccine/Get-Vaccinated.html#3>

(NB 州医療保険カードを有しない場合) 要電話予約 : 1-833-437-1424

- ・ ワクチン関連情報サイト

<https://www2.gnb.ca/content/gnb/en/corporate/promo/covid-19/nb-vaccine.html#6>

・ワクチンの副作用については以下ページ内「Approved COVID-19 vaccines - Learn more about the COVID-19 vaccines:」参照。

<https://www2.gnb.ca/content/gnb/en/corporate/promo/covid-19/nb-vaccine.html>

5 寄稿 ～「教える」ということ ---「文武両道」をめざしながら--- モントリオール日本語補習校 校長 大島 晃 より～

人生の40年以上を職業にしている「教える」ということをテーマに考えを巡らせていたら、自分のバイオグラフィーのようになってしまいました。お時間とご辛抱のある方はどうぞ読み進んでいただけたらありがたいです。

小江戸と呼ばれる町が、わたしの生まれ故郷です。終戦後8年目に自宅で産湯をつかりました。古い蔵造りの町並みが残り、お寺神社がやたらと多い町で、遊び場もその境内やこんもりとした林の中でした。初雁城の城跡に建てられた高校で初めて「バレーボール」というスポーツに出会いました。20人近くいた同期が卒業時には4人まで減った「スパルタ」を絵にかいたような部活でした。監督のあだ名は「鬼」でした。まさか、このスポーツを一生続けることになるとも、自分もまた「鬼」のようになるとも、微塵も思いませんでした。大学でもバレーを続け、当時の関東インカレで決勝で敗退しました。胸の中でメラメラと燃える怒りのような口惜しさがその後の人生の「バネ」になりました。実業団で続けることも視野にありましたが、もっとこのスポーツを長く深く知りたいという思いから、指導者の道に足を踏み入れました。「教える」ことは、手本を「真似る」ことからのスタートになりました。

JOCVをご存じでしょうか。青年海外協力隊です。経済や経営の勉強をした大学を卒業後、コーチとしての研修を経て、この協力隊に参加しました。発足から10年ほどしかたっていない時期で、土木、建築、測量、電気、自動車などの技師、看護師、医師、そしてスポーツコーチなどさまざまな分野からいろいろな人たちが集まっていました。刺激的な強者（つわもの）がかなりいました。1977年、はじめて北アフリカの地、チュニジアに足を踏み入れることになりました。男子バレーボールのコーチで本格的に「教える」ことを始めることになります。同期7人とテニス空港に到着、いきなりバレーボール協会の人に迎えられ、髭だらけの世界に放り込まれました。若さに任せて、相当ハードな練習と日本のスポーツ文化を持ち込みました。選手の反応が思ったほどではありません。他のコーチへの伝搬もそれほどでもないのです。当たり前です。体育館はほとんどなく、多くは屋外での練習、ボールが数個、穴のあいた使い古したシューズの選手もいました。日本式は簡単には通じません。

イスラムの世界では、日の出から日の入りまでは水、食べ物を口にできない「ラマ

ダン」があります。1か月ほど続くこの期間の練習では、さらに試されます。酷暑の夏のナショナルチームの合宿では、午前の練習が終わり、午後の練習になると身体的に危険にすらなります。選手の健康や命にかかわるようなことがあれば、ちょっと食べてもいいとのこと。アッラーも優しいところがあります。「朱に交わって赤くなる」ができないと、チーム作り、人づくりの共同作業ができず、お互いの垣根が低くなることはありません。「教える」ことは、彼らのやり方を「学ぶ」ことからのようです。

日本に戻り、大学で保健体育の免許を取り地元埼玉県で教壇に立つことになりました。赴任した高校は、剛腕と精神の強靱さを求められる学校でした。敷地の周りを轟音を響かせ流すバイクも出沒します。ただおとなしいだけの生徒もいれば櫛を手放さないリーゼントの生徒もいます。当時テレビでは、「スクールウォーズ」が放送されていました。そのドラマのままの世界が目の前にあります。それでも目指すバレーボールのチーム作りの歩みを止めるわけにはいきません。どうすればいいか、悩みました。とにかく体が大きく力がある俊敏な子はいないか、さがしました。いました。番長です。彼を口説き、バレーの面白さを見せ、親を説得しました。どうにかこうにか、やっと体育館に足を踏み入れてくれました。練習初日から2、3日後の放課後、彼の姿がコートにありません。自宅におもむき帰りを待ちました。午後8時、バイクの音がしました。戻ってきました。直ぐ、わたしの軽自動車に大柄な彼を乗せ高校の体育館に向かいました。真っ暗な体育館に照明をつけ二人だけで練習をしました。午後10時、自宅に送り届ける狭いクルマの中で「オレは真剣だぞ」とだけ言い残し帰りました。ほとんど口をきかない子、ダメだ、できないと言われる子、札付きでエネルギーを持て余している子たち、でも必ずいいところがあるはずです。それを伸ばすのが先生の仕事。「教える」ことは、いいところを「見つける」ことなのでしょうね。その後、チームは、埼玉県の高校203校中、第3位まで昇り、番長エースくんは、埼玉選抜のエースにまでなってくれました。

時は、1991年春になりました。埼玉県の公務員、先生の座を日本において海を渡りました。反対もあつたり、不安も多かったりのカナダ到着です。新しい人生づくりに挑戦です。38年の齢を重ねました。坂はきつい方が上りがいいがある。生まれつきの楽天的な性格は、小さい子を3人抱えた新しい生活を随分後押ししてくれました。生活のため何でもやる覚悟はしていました。でも、まず本職の先生を目指してみようと行動を起こしました。ケベック中200以上の学校にCVを送り、近いところは、直接訪ねました。到着から1か月後、先生の空きがあるけど試してみますか、という電話がありました。ネイティブでないフランス語の不安は大きいですが、せっかくです。ダメでもともと、お願いすることにしました。今も勤務するCollege Francaisです。そして1992年春、自分の先生としての原点の日本語での教育も、幸いなことに補習校でできることになりました。現地校では体育の先生、バレー部の

監督、補習校では、小5の担任の仕事がスタートしました。

現地校では、やはり、フランス語の壁に突き当たりました。授業や部活で、こちらからの指示は理解してもらえても、生徒の言っていることが中々理解できないのです。薩摩弁を使う人が、津軽弁を使う人の中にまぎれ込んだらこうなのでしょう。慣れるまでにあまたの時間がかかりました。創部3年目のバレー部はあるにはありました。放課後週2回の練習で、目の前に現れた生徒は3人でした。さて、どうしよう。1年目、3人の生徒と昼休みにつかまえた生徒を使ってシーズンを過ごし、取ったセットは3セットに終わりました。もちろん全敗です。選手集め、選手の意識改革、親や学校を巻き込むことを徹底しました。2年目は3試合勝ち、3年目はローカルから地区大会に進み準優勝。地区で優勝チームだけ出場が許される州大会には4年目に初出場。5年目は、はじめて州でメダルに手が届き、3位になりました。6年目は、校内のバレーボールのチーム数も年齢別に5チームまで膨らみ、初めてのケベック州優勝ができました。2000年代に入ると毎年のように表彰台の真ん中に進むことができ、現在まで州大会で43個の金メダルを子どもたちに渡すことができました。2009年には、カナダ全国で初優勝。ケベックの白人3人、ハイチの黒人2人、アフガニスタン人と中国人リベロー人ずつで金メダル、コート上で笑顔が爆発しました。2018年は決勝で敗退、銀メダルに終わり、未だ挑戦が続いています。「何が楽しみか？」って訊かれると、躊躇なく子どもたちの、勝った時、できた時の「笑顔」です、と答えます。このために繰り返し練習を積み上げていくと言ってもいいでしょう。卒業生には、チームカナダに進んだ子、プロの扉をたたいた子などが出てきました。一方、選手としても優秀であった3人が医者として活躍しているのを見ると、文武両道を目指した方針にくるいはなかったと安堵もしています。「教える」とは、ブレずに「与えて、与えて、与え続ける」ことのようにです。

週1回の補習校も真剣勝負です。児童生徒数が2000年前後は、全体で50人を切る時がありました。生徒がいなくなったクラス。担任する小5も1学期間児童が一人の時もありました。1対1で一日6時間過ごすのは、想像以上の重労働です。教わる方も教える方も辛抱がいります。中学部の閉鎖や複式授業の検討がなされ、補習校の存続が危ぶまれる状況にもなった時期でした。その沈みそうな時期をみなさんの工夫と努力で持ちこたえて、2021年の現在では、およそ120人の子どもたちが通って来る学校に盛り返しました。ありがたいことです。きつい思いをしながら、時には涙を見せて勉強してくる子どもたちにどう応えられるか。授業時間の1分、1秒も無駄にできません。そしてここでも、子どもたちの難しい問題が分かった時の「笑顔」、テストで素晴らしい点を取った時の「笑顔」それが何よりの「教える」モチベーションになっています。たまには、担任の下手なジョークに答える「笑顔」も捨てたものではありません。「教える」とは、子どもたちの可能性を「信じる」信じ続けること、これ以外ないと思います。まとめます。「教える」とは、「真似る」「学ぶ」「見つ

ける」「与える」そして「信じる」こと、こんな大島流教育論が出来てきました。でも、まだまだ発展途上です。

パンデミックの収束を願い、子どもたちと一日も早く「ふつう」の授業や活動ができることを楽しみにしながら筆を置きます。しっかりワクチンを打ってください。最後までお読みいただきありがとうございます。

令和3年5月 立夏の候

モンリオール補習校 校長 大島 晃

6 領事便り

(1) 領事窓口の開館時間

当地における新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ、当館の感染予防を徹底しつつも、在留邦人の皆さまのニーズに適切にお応えしていくため、昨年4月1日より、以下のとおり領事窓口時間を短縮していますので、改めてお知らせいたします。

●領事窓口の受付時間

10:00～12:30、13:30～15:00

※9:00～10:00及び15:00～17:00につきましても、電話による照会（緊急の場合）、メールによる照会に対応しております。

【来館時の注意点】

昨年3月25日よりケベック州政府の要請を受ける形で、当館が入居するビル管理会社側は、入居テナント従業員以外の入館を1階受付において制限しています（土日祝日等の休館時対応と同様の措置）。

当館へ来館される方につきましては、1階受付において、氏名とともに在モンリオール日本国総領事館への訪問理由を告げることにより、入館を許可されることとなっています。

(2) 2021年度の領事出張サービスについて

新型コロナウイルス流行の影響により、現時点においては領事出張サービスの実施を見合わせている状況です。

今後、各州の状況を注視しつつ、行動・移動制限が緩和されれば、領事出張サービスの再開を検討しますので、在留邦人の皆さまにおかれましてはご不便をおかけしてありますが、ご理解賜りますよう宜しくお願いいたします。

（３）在留届の内容は最新でしょうか？

海外において災害等の緊急事態が発生した際に、在留邦人の皆様の安否確認や必要な情報を提供する等のための連絡が迅速に行えるよう、在留届の記載内容を確認しております。

外国に３ヶ月以上滞在する日本人は、お住まいの地域を管轄する在外公館に在留届を提出することが義務づけられています。在外公館は、在留届をもとに、日本人の皆様が不慮の事故や事件、災害に遭遇した際の安否確認、日本国内連絡先への緊急連絡等を行っています。そのためには、在留届の記載内容が常に最新の状態であることが重要です。

在留届を提出されている在留邦人の皆様のうち、在留届を書面で当館に提出された方におかれては、届出内容に変更が生じた場合は、速やかに当館に御連絡くださるようお願いいたします。

なお、インターネット上で提出された方におかれては、御自身でインターネットにて手続きをお願いいたします。

（４）海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業のご案内

日本国外務省は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により生活に支障が出ている海外の在留邦人・日系人を支援するため、在外諸団体（日本人会、日本商工会議所、日系人団体等）を通じた「海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業」を実施することとなりました。

同事業は、日本人会、日本商工会議所、日系人団体等が実施する、新型コロナウイルスの感染拡大防止策やビジネス環境作りの支援を目的とする内容となっています。

申請には条件がありますので、詳しくは外務省ホームページをご確認ください（個人や企業による申請は認められていません）。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/cp/page22_003572.html

７ 広報・文化便り

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（culture@mt.mofa.go.jp）までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

（１）ウェビナー：最先端を進むケベック州のイノベーション技術の紹介

当館とケベック州投資公社は、2回シリーズで、ケベック州の優れたイノベーションとグリーンテックを紹介するウェビナーを開催します。参加無料、使用言語は英語です。事前登録が必要となります。

●第1回：ケベック州が保有するグリーンテックについて

（東部時間）5月26日（水）20時～21時半

（日本時間）5月27日（木）9時～10時半

（詳細）https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/pdf/webinar_20210527.pdf

（事前登録先）

<https://app.dialoginsight.com/T/WF/13666/2gzJV8/Register/fr-CA/Form.ofsys>

●第2回：ITやAIの分野で北のシリコンバレーと称されるケベック州の優位性

（東部時間）6月2日（水）20時～21時半

（日本時間）6月3日（木）9時～10時半

（詳細）https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/pdf/webinar_20210603.pdf

（事前登録先）

<https://app.dialoginsight.com/T/WF/13628/Ry50zt/Register/fr-CA/Form.ofsys>

（2）当館ツイッターアカウント

当館ツイッターアカウントを開設しています。日本や当館の活動に関する情報を随時発信しています。

<https://twitter.com/JaponMontreal>

（3）第15回日本国際漫画賞作品募集のお知らせ

4月7日から7月8日まで、日本国際漫画賞の作品募集を行っています。詳細はこちらからご確認ください。

<https://www.manga-award.mofa.go.jp/>

（4）日本関連行事等のお知らせ

*以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含みます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

*外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様への御参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんので御了承ください。

●ラヴァル大学図書館エスパス・ジャポン：オンライン—日仏語ランゲージエクステンジ

ケベックと日本をインターネットソフトウェア Discord を使って繋ぎ、日本語・仏語それぞれの言語の学習を楽しみながら深めます。中級から上級レベルの方が対象です。

1月18日より隔週月曜19時～21時

参加費：無料

問い合わせ・申込先：佐藤祥子氏 sachiko.sato@crchudequebec.ulaval.ca

●Festival Acces Asie

5月6日から29日まで、オンラインで開催されます。茶道や橋本京子氏によるピアノコンサートなどが行われます。

<https://accesasie.com/en/>

* 橋本京子氏ピアノコンサート：5月21日20時（無料）

<https://accesasie.com/en/event/kyoko-hashimoto-vivier-piano-concert-virtual/>

●トロント日本映画祭

6月5日から27日まで、トロント日本映画祭がオンラインで開催されます。カナダ国内でのみ視聴可能です。（一部の映画については、オンタリオ州以外での視聴ができないなど地域制限がありますのでご確認ください。）

<https://jccc.on.ca/event/2021/05/toronto-japanese-film-festival-2021>

●ヤタイ・モンリオール「ジャパン・ウィーク」

6月7日から13日まで、日本のストリート・フード・フェスティバルが開催されます。

<https://www.facebook.com/yataimtl/>

●国際交流基金トロント日本文化センター主催イベント

日本カナダ文学交流や日本のステージ・パフォーマンスの紹介など、様々なオンライン・イベントが随時開催されています。詳細はこちらからご確認ください。

<https://jftor.org/>

8 政治

（1）ケベック（QC）州

・4月8日、3月にモンリオール地下鉄で起きたアジア系女性に対する人種差別事件に関連し、44歳男性が逮捕される。

・4月20日、州政府は、2021年度連邦政府予算に医療交付金増額が含まれていないことに遺憾の意を表明。各州政府は、連邦政府からの医療交付金を年間280億加ドル増額し連邦負担割合を22%から35%に引き上げることを求めてきた。

・4月20日、ブランシャール(Marc-Andre Blanchard)州上級裁判所裁判官は、政教分離に関する州法21を有効としつつ一部の条項を停止する判決を下す。これにより宗教的シンボル着用は、英語系教育委員会管轄の学校と州議会においては許可されるが、仏語系学校教職員、警察官、消防士、裁判官等その他同法の対象となる全ての職業においては引き続き禁止される。州政府は、同判決を不服として控訴すると発表。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 4月7日、州内最年少となる16歳の人が新型コロナで死亡。
- ・ 4月8日、職場屋内におけるメディカルマスク着用義務付け開始。従業員が閉鎖された部屋で単独で作業する時や食事時は適用外。
- ・ 4月8日、警戒レベルが赤の地域において各種規制が再強化される。赤とオレンジ地域から黄色の地域への出入り禁止、ジム閉鎖、宗教施設の集まり人数上限は25人に引き下げる等。12日より、中高校生3～5年生は1日おきの登校に戻る。
- ・ 4月11日、モントリオール、ラヴァルで夜間外出禁止開始時刻が20:00に早められる。モントリオール旧市街では同日20:00過ぎ、衛生措置に従わず暴徒化した人たちが商店の窓ガラス等を破壊・放火し警察と衝突。
- ・ 4月15日、薬局におけるワクチン接種が州全域で開始。
- ・ 4月19日、オンタリオ州との往来規制開始。同州からの入州者には原則14日間の自主隔離を義務付ける。
- ・ 4月20日、45歳以上へのアストラゼネカ製ワクチン接種を開始。
- ・ 4月23日、州内の1日のワクチン接種回数が88000回を記録。
- ・ 4月26日、企業向けワクチン接種開始。CAE社が第1号。
- ・ 4月30日、ワクチン接種対象年齢が50歳に引き下げられる。5月14日までには18歳以上の全ての希望者の接種受付を開始予定。

(2) 大西洋州

- ・ 4月13日、大西洋4州首相は、4月19日に予定していた、大西洋州内の自主隔離なしの往来を許可する「アトランティックバブル」再開延期を決定。新たに5月3日再開を目標とすることで合意。28日、「アトランティックバブル」再開が再度延期に。新たな再開日目標の設定はなし。

(3) ニューファンドランド・ラブラドール (NL) 州

- ・ 4月1日、クレティエン(Jean Chretien)元カナダ首相が関与し、日本他の高レベル放射性廃棄物をラブラドールに埋設する構想について、ボール(Dwight Ball)前州首相に対しても働きかけがあったというラジオカナダの報道を受け、フューリー(Andrew Furey)州首相は声明で、2020年夏、自身の州自由党党首選中にクレティエン氏からその構想を聞いたが断ったと発表。
- ・ 4月8日、フューリー新内閣が発足。
- ・ 4月12日、コフィン州NDP党首は、3月に結果が発表された州議会総選挙で、自身が53票差で敗北した選挙区で不正があったとし結果の破棄と再集計を求め、州上級裁判所に異議申し立て。(その後別の2選挙区でも選挙結果に対する異議申し立てが申請される。)
- ・ 4月21日、ホーガン州法務大臣は、州選挙法改正を検討する全党委員会の設立を発表。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 4月8日、55～64歳へのアストラゼネカ製ワクチンの接種開始。
- ・ 4月27日、第3波で深刻な状況にあるオンタリオ州からの応援要請に応え、医師であるフューリー州首相夫人を含む9人の医療ボランティアが同州に向け出発。

・ 4月28日、フィッツジェラルド州保健局長は、州内でインド変異株を確認したと発言。

（４）プリンスエドワードアイランド（PEI）州

・ 4月20日、州議会は、緑の党が提出した、選挙権年齢を現在の18歳から16歳に引き下げることを目指す法案を否決。

（新型コロナウイルス関連）

・ 4月12日、ワクチン接種対象年齢が55歳に引き下げられる。
・ 4月16日、州内で初めて入院者を記録。
・ 4月19日、州政府は、季節居住者を含む非居住者の大西洋州外からの入州停止を発表。5月17日までの予定。
・ 4月26日、妊婦がワクチン接種対象に。
・ 4月24日・26日、州政府は、入州者に対するコロナ検査と隔離義務付け対象を拡大。

（５）ノバスコシア（NS）州

・ 4月13日、ランキン政権で初めて開催された州議会は、合計で19の法案を可決し閉会。ランキン首相は自由党党首選中に環境と社会的平等を優先課題としたが、「生物多様性法(Biodiversity Act)」は、業界ロビーの圧力により大幅な変更を余儀なくされた。政府は他に毎年8月1日を奴隷解放記念日と制定する「Emancipation Day Act」や、歴史的に黒人系州民が多く住む地域の土地所有権明確化の迅速化を目指す「土地所有権イニシアチブ加速法(Land Titles Initiative Acceleration Act)」等を可決した。

（新型コロナウイルス関連）

・ 4月6日、55～64歳へのアストラゼネカ製ワクチンの接種開始。
・ 4月6日、州政府は、NL州からの入州者に対する14日間の自主隔離義務付けを解除。また州内の商店等の収容人数上限を引き上げ。
・ 4月15日、NB州からの入州者に対する14日間の自主隔離義務付けを再開。
・ 4月22日、州政府は、PEI・NL両州民を除く非居住者の入州停止を発表。
・ 4月23日、ハリファックスとその周辺地域でロックダウン開始。
・ 4月25日、衛生措置規則違反者に対する罰金額がこれまでの2倍の2000加ドルに引き上げられる。
・ 4月26日、ファイザー、モデルナワクチン接種対象が55歳に引き下げられる。
・ 4月27日、大規模検査実施支援のためカナダ軍が派遣される。
・ 4月28日、州全域でロックダウン開始。
・ 4月30日、アストラゼネカ製ワクチンの接種対象年齢が40歳に引き下げられる。

（６）ニューブランズウィック（NB）州

・ 4月11日、州選挙管理委員会は、投票日が5月10日に予定されていた自治体選挙について、ロックダウンが発表されたゾーン4の一部地域における活動停止を発表。27日、州選挙管理委員会は、ロックダウン解除にともない同地域の選挙活動を再開するとともに投票日を5月25日に延期すると発表。その他地域の投票日は5月10日のま

まだが、結果発表は州全域で5月25日に延期となる。

・4月28日、州政府は、死者6人、罹患疑い47人に上る謎の脳疾患について最新情報を提供するための特設ウェブサイト開設。この病気は狂牛病で知られるプリオン病に似ており、最初の症例は2013年にさかのぼるという。

(新型コロナウイルス関連)

- ・4月8日、55歳以上へのアストラゼネカ製ワクチンの接種開始。
- ・4月11日、ゾーン4の一部でロックダウン開始。高校の対面授業の全面再開は延期に。
- ・4月16日、ゾーン4で警戒レベルが赤になっている地域の一部の警戒レベルがオレンジに引き下げられる。
- ・4月20日、妊婦がワクチン接種対象に。
- ・4月25日、州政府は、不可欠であると認められる理由を有さない入州者に対し、州政府指定のホテルに自費で7日間の隔離義務付けを開始。隔離5日目にコロナ検査を実施し、陰性であれば目的地での残りの自主隔離継続を許可する。
- ・4月26日、州内で初めてインド変異株を確認。
- ・4月26日、ワクチン接種対象年齢が60歳に引き下げられる。
- ・4月28日、ロックダウンとなっていたゾーン4の一部地域の警戒レベルがオレンジに引き下げられる。

【各州世論調査結果（未確定分は除く）】

●州政党支持率

・NB州（MQO調べ、3月10～18日）：進歩保守党38%、自由党31%、緑の党17%、ピープルズ・アライアンス5%、新民主党（NDP）6%、その他1%

9 経済

(1) QC州

- ・4月6日、エアカナダは、トランザットの買収計画を撤回。カナダ連邦政府は買収を承認したが、欧州委員会からの承認は得られていなかった。
- ・4月6日、RioTinto-IOC（三菱商事26.18%）がセティルに所有する港湾施設で、3月31日に発生した火災の影響で鉄鉱石の積み込み作業が中断。火災による負傷者や解雇はなし。
- ・4月8日、エアバスは1年以上ぶりにA220-300型20機を受注したと発表。顧客の名前は明らかにせず。
- ・4月12日、インドの経済ニュースサイト「Moneycontrol」によると、インドの航空会社TrujetがエアバスA220型54機を発注。
- ・4月13日、連邦政府は、最大59億加ドルの救済策でエアカナダと合意。これによりエアカナダは、コロナ禍で予約した便が欠航となった顧客への払い戻しと、運休した地方路線を再開する。
- ・4月14日、企業債権者調整法適用下にあるアビティビ＝テミスカマング地域の

North American Lithium (仏名 Lithium Amerique du Nord)の買収を6企業が希望。(スイス Mercuria、豪 Sayona Mining、米 Evolution Metal Corp、中 CATL、ケベック州 Central America Nickel と SRG。)

・4月14日、州政府は、アパラチア・メイン相互接続線プロジェクトを承認。この相互接続線は年間9.45テラワット時(TWh)の水力発電による電力を20年間にわたり米マサチューセッツ州に送るもので、早ければこの夏に建設工事が始まる可能性がある。プロジェクト費用は推定6億加ドル。

・4月15日、州・連邦両政府は、モントリオール空港に6億加ドルの建設費をかけた都市高速交通網(REM)の新駅を設置することに合意。

・4月16日、連邦・州政府は、食肉生産者向けに2180万加ドルの財政支援を発表。連邦政府と州政府はそれぞれ60%と40%負担し、コロナ禍での食肉処理遅延による動物の飼育期間延長にともなう費用の一部を負担する。

・4月21日、ケベック人工知能(AI)研究所(Mila)とインテルは、AIによる医療研究促進に向けたパートナーシップを締結。新しいワクチンや医薬品創出を加速するためのAIツール開発を目指す。

・4月26日、モントリオール港の港湾作業員1150人が無期限ストライキに突入。タッシ(Filomena Tassi)連邦労働大臣は、連邦政府は同作業員の職場復帰を強制する法案を提出すると発表。

・4月29日、豚肉加工大手オリメルのVallee-Jonction工場で、従業員1050人が賃上げを要求し無期限ストライキに突入。同工場は週に35000~37000頭の豚を加工する重要施設で、業界は影響を懸念。

(2) 大西洋州

・4月1日、最低賃金が引き上げられる。NL州は時給12.50加ドル(+35セント)、PEI州13加ドル(+15セント)、NS州12.95加ドル(+40セント)、NB州11.75加ドル(+5セント)。

・4月25日、「Maclean's」誌の「2021年カナダ国内で最も住みやすい場所ランキング」で、シャーロットタウンとハリファックスが共に首位に浮上。同誌はパンデミックでリモートワークが定着していることを前提に、インターネットへのアクセス状況等の採点項目を追加したとのこと。大西洋州では他にフレデリクトンとモンクトンがそれぞれ2位と7位に入った。

(3) NL州

・4月7日、PAL航空(本社セント・ジョンズ)がカナダ東部で路線拡大を発表。5月より、ハリファックス、フレデリクトン、シャーロットタウン始め、QC州、オタワを含むカナダ東部の複数の地域で運航開始予定。

・4月16日、フォーチュン(ニューファンドランド島南岸)港の埠頭拡張工事が完了し、対岸のサンピエール島・ミクロン島(仏海外準県)が2年前に購入したフェリー2

隻の車両運搬スペース使用が可能に。

・ 4月19日、州社会・経済に大きな打撃を与えたタラ禁漁措置開始から来年で30年が経つが、専門家はタラ資源の回復は実現しないかもしれないと懸念している。現在連邦漁業省はタラの小規模商業漁業を許可しているが、海洋保護団体 Oceana Canada は、同省が推奨する最大漁獲量（今夏12999トン）が多過ぎることを問題視。一方同州の漁業組合（FFAW）はこれに同意せず、専門家によるタラ資源の危機的水準が高く設定され過ぎており、資源の状態は統計の数字よりはるかに良いと反論。

（4）PEI 州

・ 4月29日、州内4つの信用組合 (Evangeline-Central, Malpeque Bay, Provincial, Tignish) が合併を承認。新信用組合は10支店、顧客35000人、資産10億加ドルを有する。

（5）NS 州

・ 4月14日、「生計を立てるための漁業」についてミクマク・ファーストネーションと交渉中のジョーダン連邦漁業大臣は、ロブスターだけでなくウナギの稚魚も交渉の一部であると発言。ウナギの稚魚については商業漁業者と先住民漁業者との間の対立の激化と、それに伴う乱獲が懸念されており、2020年に連邦漁業省はNS・NB州のウナギ稚魚漁禁止を命令した。ウナギの稚魚は生きたままアジアの養殖場に空輸され育てられているという。

・ 4月20日、アマゾンがダートマスに配送センター開設準備中との報道。

・ 4月20日、シペクネカティク (Sipekne'katik) ミクマク・ファーストネーションは、2020年に引き続き6月1日より「生計を立てるための漁業」の枠組みでロブスター漁を実施すると発表。連邦漁業省は同コミュニティに対し、商業漁業と同時期の漁業実施を求めていたが交渉は決裂していた。「生計」漁期は5ヶ月間で、夏のロブスターの脱皮時期には漁を中断しダルハウジー大学と共同研究を行う予定。

（6）NB 州

・ 4月12日、連邦政府は、20年にわたり土地の権利を主張してきた州北西部のマダワスカ・マリシート (Madawaska Maliseet) ファーストネーションに対し、1.45億加ドルの補償金を支払うことで合意。連邦政府の土地請求権に関する和解金としては沿海州史上最高額。2017年に連邦裁判で同ファーストネーションの主張が認められたが、金銭面の交渉が続いていた。また合意には、同ファーストネーションが783ヘクタールの土地を取得するオプションも含まれる。

・ 4月13日、州政府は、13ファーストネーションとのガソリン税協定からの撤退を発表。協定は1994年から存在し最近では2017年に更新された。協定はファーストネーション・コミュニティ内のガソリン税収のうち800万加ドルまでなら95%、それ以上の金額なら70%を保持できるというもので、特にガソリンスタンドを大規模展

開するコミュニティの経済成長に寄与してきた。ヒッグス州首相は同協定は時代遅れで不公平であるとし、ファーストネーションに対して「近代的で持続可能な経済パートナーシップ」を求めているが、ファーストネーションは、この決定について事前に何も知らされていなかったと反発。

・4月14日、アルバータ州政府は、ニューブランズウィック・オンタリオ・サスカチュワンの3州が2019年に締結済みの小型原子炉「小型モジュール炉」(Small Modular Reactor, SMR)の研究開発と建設に向け協力するための覚書に参加。SMRテクノロジーはまだ実用段階にない。

・4月29日、ウォルマートが大西洋州初となる配送センターをモンクトンに開設すると発表。

[在モントリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから、当館に在留届を提出されている方と、当館メールマガジン購読登録をされている方に向けて送信されています。本メールあてに直接返信なさないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。

emagazine@mt.mofa.go.jp

○メールマガジン購読登録をされている方で、配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡ください。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モントリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○メールマガジンのバックナンバーは、以下のURLをクリックすると閲覧いただけます。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ (www.kantei.go.jp)

外務省ホームページ (www.mofa.go.jp/mofaj/)

在カナダ日本国大使館ホームページ (www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館ホームページ (https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館 Facebook (www.facebook.com/JapanConsMontreal)

当館 Twitter : @JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モントリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333, Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当
(emagazine@mt.mofa.go.jp) までご相談ください。

■-----■